



NCAJ

National Camping Association of Japan

National Camping Association of Japan

Camp Meeting in Japan 2020

-第24回日本キャンプミーティング-
-第4回オンラインミーティング-

配布資料 (簡易抄録集)

<期 日> 2020年11月14日

<主 催> 公益社団法人 日本キャンプ協会

<会 場> オンライン

目次

第24回日本キャンプミーティングの開催に当たって.....

第24回日本キャンプミーティングの軌跡.....

スケジュール.....

発表題目一覧.....

ワークショップ紹介.....

研究発表簡易抄録.....

実践発表簡易抄録.....

第24回日本キャンプミーティング 開催に当たって

第24回日本キャンプミーティングが、今年も多くの皆様からのご協力を頂いて開催される運びとなりました。心より感謝申し上げます。

2020年は全世界がこれまでの価値観を大きく変えざるを得ない未曾有の事態となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大は私たちキャンプ関係者にも大きな影響を与えています。4月7日に7都道府県に緊急事態宣言が発出されたことを受け、第1回の実行委員会ではこの事態に対応するために、とにかく「走りながら考える」ことにしました。ほぼ時を同じくして行っていた日本キャンプ協会の関係者を対象としたアンケート調査の結果から、「キャンプを取り巻く課題」と「今だからこそ感じるキャンプの価値」をとりまとめ、5月17日には日本キャンプ協会関係者（理事、監事、運営委員、都道府県協会関係者）によるプレミーティングを行いました。

そして、第24回キャンプミーティングは、コロナ禍の中で急速に普及が進んだオンライン会議システムを活用し、計4回のオンラインミーティングを開催することにいたしました。このミーティングが目指すことは以下の4点です。

1. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会状況の中で、「キャンプの実施に伴う課題」と「今だからこそ改めて思うキャンプの価値」について考え、議論し、共有する。
 2. この夏のキャンプ実施について情報を共有する
 3. この夏のキャンプ実施についてふりかえりをする
 4. これまでの成果を総括しながら、2020年だからこそ見えてきたキャンプの価値を共有すると同時に、社会に向けてアピールする機会となることを目指す。
- 4回目となる今回のミーティングはこれまでの取り組みをまとめる総決算となります。

まず、この危機は日本だけでなく世界各国で起きています。国際キャンプ連盟（International Camping Fellowship）の全面的な協力をいただき、世界各国のコロナ×キャンプの取り組みを日本語字幕付きで公開します。ぜひ世界のキャンプファミリーの熱いメッセージをお聞きください。

ワークショップもオンラインの強みを活かし、全国各地の取り組みをそれぞれの場所から体験できるような機会を用意いたしました。若手が企画し、若手が進行するワークショップでは、「オンラインOB訪問」として、キャンプに関係した仕事に就いている方々に、若手が疑問をぶつけます。録画も公開もしない1本勝負です。研究・実践発表も例年通り行います。実践発表はこの夏の事業に関する貴重な取り組みをご紹介します。

パネルディスカッションは、これまでの総まとめとなります。日本キャンプ協会が実施した調査の結果、7割を超える団体が、キャンプの実践を再開していました。今回は3名のパネリストをお招きし、コロナ禍での質の高いキャンプの実践について議論していきます。

Zoomのブレイクアウト機能を用いたオンラインの懇親会も実施します。旧交を温めたり、普段は会えない人と話したり、全国のキャンプ仲間と交流できる時間にしたいと思います。

新型コロナに限らず、気候変動、様々な災害、対立と分断、これからの社会はさまざまな困難が待ち受けているかもしれません。しかし、それは私たちの大好きなキャンプの可能性を広げることにつながるようにも思います。キャンプという「乗り物」に何を載せて人々に届けるか、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。



第24回日本キャンプミーティング実行委員会

委員長 野口 和行

第24回日本キャンプミーティングの軌跡 (3泊4日のキャンプをイメージして企画しました)

日程		実施内容	備考
プレミーティング (前泊)	5月17日(日)	日本キャンプ協会の関係者を対象としたアンケート調査の結果から、「キャンプを取り巻く課題」と「今だからこそ感じるキャンプの価値」をとりまとめ共有。	日本キャンプ協会理事、監事、運営委員、都道府県協会関係者対象
第1回 (1日目)	6月6日(土)	海外の団体・組織による新型コロナウイルスへの対策の紹介、実行委員による発題「どうしたらキャンプできるだろう」。	無料 約120名参加
		https://www.youtube.com/watch?v=oF_g_vqoEAM&t=75s	
第2回 (2日目)	7月4日(土)	都道府県キャンプ協会、青少年教育施設、民間団体による、今夏の活動予定と感染対策の紹介。	無料 約80名参加
		https://www.youtube.com/watch?v=ox6VvzckIH4	
第3回 (3日目)	9月30日(水)	都道府県キャンプ協会、青少年教育施設、民間団体による、今夏の成果・活動報告と課題点の共有。	無料 約60名参加
		https://www.youtube.com/watch?v=Ti963CdyU-k	
第4回 (4日目)	11月14日(土)	国際キャンプ連盟関係者のスペシャルスピーチ、研究発表、実践発表、オンラインとフィールドを繋ぐワークショップ、若手ワークショップ、質の高いキャンプ再開に向けたパネルディスカッション、懇親会・情報交換会	

スケジュール

10:00	スペシャルスピーチ(字幕付き) ～世界のwithコロナ×キャンプ～				10:00
12:00	John Jorgensonさん(国際キャンプ連盟 元会長)、Jeff Bradshawさん(カナダキャンプ協会 元会長) Ruth Fengさん(Jingle International Education (菁果国際教育) CEO)、Tom Rosenbergさん(アメリカカキキャンプ協会 現会長件CEO)				12:00
	ルーム1	ルーム2	ルーム3	ルーム4	
Time	ミーティングID: 928 6424 2202 パスコード: 576 201	ミーティングID: 870 6415 4341 パスコード: 481 636	ミーティングID: 976 6436 3926 パスコード: 425 545	ミーティングID: 862 4611 6380 パスコード: 328 367	Time
12:55	開会の挨拶・アナウンス	開会の挨拶・アナウンス	開会の挨拶・アナウンス 若手ワーキングセッション 「オンライン0B訪問」	開会の挨拶・アナウンス	12:55
13:00	実践発表(P-1)	実践報告(P-3)	OB①: 豊留雄二さん (自然遊びクラブ)	WS: 白濱真友さん (一社)セルズ環境教育デザイン 研究所	13:00
13:18			OB②: 鈴木浩之さん (Essential Education Center)	キャンプ、自然体験の 魅力を伝える動画制作の現場から	
13:20	実践報告(P-2)	実践発表(P-4)	OB③: 池田麻梨子さん (東京YMCA)		13:30
13:38			進行: 川島才路さん (筑波大学大学院)		
13:40	--	夏の自然体験活動・キャンプ 事業実態調査報告		WS: 青木大樹さん (有)南相木ふさとふれあい公 社	13:45
13:58				小学生冒険プログラムの現場から	14:15
14:00	研究発表(R-1)	談話室			
14:18					
14:20	研究発表(R-2)		WS: 石川大晃さん いこーよ四季冒険部 (アクトインディ株式会社)	WS: 内藤明さん りんばな	14:30
14:38					
14:40	研究発表(R-3)		オンラインとキャンプを つなげる、農業体験の現場から	石垣島のフィールドから、 コロナ禍でのプログラム紹介	15:00
14:58		(14:50まで開放)			
	ミーティングID: 832 1121 6504	パスコード: 521 264			
15:15	全体まとめ・パネルディスカッション これからキャンプ、こうしませんか? ～キャンプの再開から、質の高いキャンプ実践へ!～				15:15
17:00	<ul style="list-style-type: none"> パネリスト: 小澤 潤平さん (国際自然大学校) パネリスト: 成田 裕さん (ガイア自然学校) パネリスト: 黒田 雅秀さん (山口徳地青少年自然の家) 				17:00
	ミーティングID: 813 3582 2846	パスコード: 576 062			
17:15	懇親会・情報交換会				17:15
19:30					19:30

【研究発表】

R-1	新型コロナウイルス緊急事態宣言下における、子どもの余暇の過ごし方について	井上 恵里	14:00-14:18		
R-2	長期自然体験活動が小学生の学校における適応感に及ぼす影響	小澤 孝亮	14:20-14:38	928 6424 2202	576 201
R-3	S小学校セカンドステップを事例として 民間の野外教育団体の組織キャンプにおける プロダクト構造の分析	矢野 達也	14:40-14:58		

【実践報告】

P-1	〈ONLINE×CAMP 空想キャンプ場〉の取組みと今後の可能性について	越前 麻代	13:00-13:18	928 6424 2202	576 201
P-2	コロナ禍でも四季冒険	近藤 みのり	13:20-13:38		
P-3	ろう・難聴児のためのオンラインキャンププログラムの試み デフ・アドベンチャー・キャンプ・オンライン2020	針ヶ谷 雅子	13:00-13:18		
P-4	バーチャルキャンプをやってみよう！	柳下 史織	13:20-13:38	870 6415 4341	481 636
P-5	夏の自然体験活動・キャンプ事業実態調査報告	高橋 宏斗	13:40-13:58		

【ワークショップ】

W-1	キャンプ、自然体験の魅力を伝える動画制作の現場から	講師 白濱 真友さん	13:00-13:30		
W-2	コロナ禍での小学生冒険プログラムの現場から	青木 大樹さん	13:45-14:15	862 4611 6380	328 367
W-3	石垣島のフィールドからコロナ禍でのプログラム紹介	内藤 明さん	14:30-15:00		
W-4	若手ワークショップ 「オンライン0B訪問」	豊留 雄二さん 鈴木 浩之さん 池田 麻梨子さん 川島才路さん	13:00-14:15	976 6436 3926	425 545
W-5	オンラインとキャンプをつなげる、農業体験の現場から	石川 大晃さん	14:30-15:00		

【談話室】

オープンスペースとしてご活用ください。	14:00-15:00	870 6415 4341	481 636
---------------------	-------------	---------------	---------

ワークショップ紹介

「オンライン会場とフィールドをつなげるワークショップ」

- キャンプ、自然体験の魅力を伝える 動画制作の現場から
- 白濱 真友（しらはま まゆ）さん
- （一社）セルズ環境教育デザイン研究所

【キーワード】

動画制作、生物撮影、自然観察、環境教育、生物教育



【ワークショップの内容】

集合イベントができない期間、当所では自宅や近所の公園などでできる自然観察・生物学習をサポートする動画の制作・配信を行ってきました。今回は、自然を伝える動画の事例紹介と合わせて、動画構成、野外・生物撮影のコツ、編集、など動画制作の過程をご紹介します。

【団体リンク（URL）】

<https://cells.jp.net/>

W-1 ルーム 4
13:00-13:30

- コロナ禍での小学生冒険プログラムの現場から
- 青木 大樹（あおき ひろき）
- (有)南相木ふるさとふれあい公社

【キーワード】

原体験、原風景、地域への愛着、
草の根、Life time Experience

【ワークショップ内容】

「個人事業」や「草の根の活動」を発展させたい方に向けた内容を考えています。本業の傍らでもできるキャンプ運営。組織にとらわれないキャンプ運営。地域貢献としてのキャンプ事業の実践について、事例を交えながら考察したいと考えています。



【団体リンク（URL）】 <https://www.facebook.com/aiki.bouken>

W-2 ルーム 4
13:45-14:15

- =====
- 石垣島のフィールドから、コロナ禍でのプログラム紹介
 - 内藤 明（ないとう あきら）さん
 - 石垣島エコツアーりんぱな



【キーワード】

親子キャンプ、夜の活動、生物多様性、
スマホ（スマートホン）、本物に触れる

【ワークショップの内容】

今の時代だからこそ沢山の人に自然とのつながりを感じてほしいですが、変化が激しく、またサービスが多様化する現代において実現の難しさを感じています。今回は沖縄 石垣島で実施しているエコツーリズムを通して、夜の楽しみ方や、人と生きものの共存、スマホの活用事例などの話題をご提供致します。

【団体リンク（URL）】 <https://rinpana.com>

W-3 ルーム 4
14:30-15:00

- =====
- オンラインとキャンプをつなげる、農業体験の現場から
 - 石川 大晃（いしかわ ひろあき）さん
 - いこーよ四季冒険部(アクトインディ株式会社)



【キーワード】

オンライン体験、農業体験、自然体験、
いこーよ、四季冒険部

【ワークショップの内容】

私達は、緊急事態宣言が出た直後から、Zoom を利用したオンライン自然体験の可能性を探ってきました。本ワークショップでは、 コロナ禍におけるオンライン自然体験づくりをはじめた経緯や、試行錯誤のエピソード、現状、今後の展望をお話できればと思います。また、「OONOFARM(農家)」の大野さんに埼玉県狭山市の畑からご参加頂き、大野さんと実施している「オンライン農業体験」も少しお届け致します。

【団体リンク（URL）】 <https://iko-yo.net/topics/bouken>

W-5 ルーム 3
14:30-15:00

=====

- 「オンライン OB 訪問」
■若手主催ワークショップ

【キーワード】

就職活動 OB 訪問 キャンプ業界 自然学校 野外教育団体



【ワークショップの内容】

大学・大学院で野外教育を学ぶことへの魅力は大いに感じながら、いざ卒業後の進路を考えると野外の世界へ飛び込むのには様々な不安が生じてしまうのが事実です。そこで、まずは実際に野外の世界で働いている方たちのお話を伺い、現状を知ることから始めようということで、「オンライン OB 訪問」の開催を企画しました。現時点では野外の道へ進むことを考えていない学生にとっても、キャンプ業界について知るきっかけになればと考えています。

【先輩紹介】



○豊留雄二 氏

大学院修了後、宮城県の自然学校を経て 2006 年に「自然遊びクラブ」を設立。「子どもから大人まで、もっとたくさんの方々が楽しく安全に自然の中で過ごせる」よう、様々な活動を展開している。



○鈴木浩之 氏

大学卒業後 OBS インストラクター、中央青少年交流の家職員、市議会議員を経験。現在は「人間力の育成」をコンセプトとして掲げる「有限会社エッセンシャルエデュケーションセンター」にて Sales & Promotion 担当マネージャーとして従事する。



○池田麻梨子 氏

アメリカ、フロストバレーYMCA で6年間の勤務経験があり、2019年秋から東京に帰任。『精神 spirit』、『知性 mind』、『身体 body』のバランスのとれた成長を重視するという理念のもと、キャンプ事業やチャリティー活動に携わる。

【団体リンク (URL)】

- 「自然遊びクラブ」 <https://shizenasobi.jp/>
- 「有限会社エッセンシャルエデュケーションセンター」 <https://e-ec.co.jp/>
- 「東京 YMCA」 <http://tokyo.ymca.or.jp/>

W-4 ルーム 3
13:00-14:15

簡易抄録集

「研究発表」

=====

■ R-1 ルーム1 14:00-14:18

【発表題目】

新型コロナウイルス緊急事態宣言下における、
子どもの余暇の過ごし方について

【発表者】

○井上 恵里（公財）ひの社会教育センター
寺田 達也（公財）ひの社会教育センター



【簡易抄録】

本調査では、新型コロナウイルス感染拡大による休校期間前後の子どもたちの生活状況や問題点を考察する。感染拡大により強制的な「ゆとりの時間」を与えられた子どもたちの生活様式に変化が訪れ、以前より社会的課題であった「遊ぶ時間の増加」が「ゆとりの時間」によって実現できたのかを考察する。調査は幼児～中学生までの子どもがいる保護者とし、生活習慣や学習状況、外遊びなどの項目から設問を構成した。

主な結果を示す。「休校期間でどのような変化があったのか」の問いに対する自由記述には、小学生 77%、中学生 81%の保護者が「家族とのかかわり」「時間的ゆとり」が得られたと回答した。また、「休校前に外遊びをしていなかった」と「休校前に自然へのふれあいに興味がなかった」の項目に相関がみられた（ $r = .383, p < .001$ ）。しかし「休校後に自然へのふれあいに興味を示すようになった」との項目では負の相関がみられた（ $r = -.220, p < .001$ ）。

子どもたちの外遊びを促進するためには時間以外の要素も必要で、外遊びの良さやリスクを熟知している自然体験指導者の力がより求められるようになるのではないかと考えられる。

=====

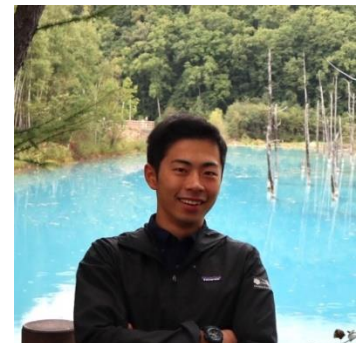
■ R-2 ルーム1 14:20-14:38

【発表題目】

長期自然体験活動が小学生の学校における適応感に及ぼす影響
S小学校セカンドスクールを事例として

【発表者】

○小澤 孝亮（筑波大学大学院）
渡邊 仁（筑波大学）



【簡易抄録】

長期自然体験活動が児童の学校における適応感に及ぼす影響を明らかにすることを目的とし、長期自然体験活動として、S 小学校の「セカンドスクール」を取り上げて調査を行った。対象は 5 年生児童 63 名である。同セカンドスクールは 2019 年 9 月 29 日から 10 月 6 日にかけて行われ、実施前の登校日である 9 月 27 日を pre、実施後の登校日である 10 月 10 日を post として調査を行った。尺度には「小学生用学級適応感尺度(江村ら,2012)」を一部改変したものをを用いた。

因子ごとの t 検定を行った結果、全因子において平均値の僅かな向上がみられたが、有意な変化ではなかった。S 小学校では、学年をいくつかのグループに分けて活動や宿泊をしており、そのグループ編成は仲の良い者同士になる可能性が高かった。それは各グループの排他性を高め、適応感に負の影響を与えた可能性がある。しかし、児童が互いに励まし合い、認め合う場面もみられ、それは適応感に正の影響を与えていたと思われる。それらの要素が互いに打ち消し合うようなはたらきをしてしまい、児童の適応感に有意な変化がみられなかったのではないかと考えた。

=====

■ R-3 ルーム 1 14:40-14:58

【発表題目】

民間野外教育団体の組織キャンプにおけるプロダクト構造の分析

【発表者】

- 矢野 達也 (大阪体育大学大学院)
- 伊原 久美子 (大阪体育大学)



【簡易抄録】

マーケティングにおいて、事業戦略における優位性を確保するためには、マーケターが扱う商品としてのプロダクトの構造を理解して市場に提供されるプロダクトの品質向上に努めなければならないという。野外教育の分野においては、子どもたちに行う組織キャンプもサービス製品であり、顧客に販売している商品の 1 つといえる。したがって、野外教育の分野においてもマーケティングなどの研究を行う必要がある。

そこで、同じサービス製品を対象としているスポーツマネジメント分野で行われている研究などの研究方法等を参考に、子どもたちの社会教育の一環として各地で実施されている組織キャンプというサービス製品に焦点をあて、組織キャンプのプロダクト構造を明らかにすることにした。

組織キャンプのプロダクトを明らかにすることは組織キャンプというサービス製品についての理解を深めることでもあり、マーケティングを行うための基礎的な資料となる。したがって、プロダクトの構造を明らかにすることは、組織キャンププログラムを提供する団体・組織に対して貴重な示唆を与えることができると考えられる。

=====

=====
■ P-1 ルーム1 13:00-13:18

【発表題目】

〈ONLINE×CAMP 空想キャンプ場〉の取組みと
今後の可能性について

【発表者】

○越前麻代 (SpringNeige キャンプ事業部 FamiCamp)



【簡易抄録】

私たちは千葉を中心に家族で参加するファミリーキャンプイベントの主催運営をしております。各業態で急速にオンライン化が進んでいますが“キャンプをオンラインで体験してもらう試み”の『空想キャンプ場』を2020年5月30日に開催しました。

全国から250組以上の申し込みがあり、キャンプ場さんによるプログラム、クッキングやヨガ体験など、with コロナ時代の意識共有など、13時から18時半まで、常時80名前後の参加者と一緒に、オンラインキャンプを楽しみ、その様子はTVやメディアにも取り上げられました。

そして空想キャンプ場企画の第二弾として、全国の子どもたち「キャンプにぴったりのゲームを作ってキャンプ場さんで売ってもらおう」というプロジェクトを行っています。お出かけもできなかった夏休み、ZOOMで8回の企画会議を重ね、子どもたちが0から考えたゲームを作りあげました。現在はクラウドファンディングで商品化する資金を募集しています。

本来アウトドアとは対極にある「オンライン」と「CAMP」を掛け合わせた試みがどのように進んでいったのか、これからの可能性についてなどお話しさせていただけたらと思っています。

=====
■ P-2 ルーム1 13:20-13:38

【発表題目】

コロナでも四季冒険

【発表者】

○近藤みのり (いこーよ四季冒険部インターン)
稲垣樹 (いこーよ四季冒険部インターン)



【簡易抄録】

私たち四季冒険部は、子どもたちの可能性を広げるため、コロナ対策を徹底した上で、この夏、親子向けイベントを実施した。その中でも特に私たちはフェイスシールドに焦点を当てた。

「カブトムシ探し」では、額に固定するタイプと眼鏡をかけるように着用するタイプの2種類のフェイスシールドを試用し、比較した。どちらも顔全体を覆って飛沫による感染を防止するタイプのものである。イベント当日は雨の予報もあり、湿度の高い日だった。そのため、どちらのフェイスシールドを着用しても、次第に蒸れてシールド面が曇って視界が悪くなり、ほぼ何も見えない状態となった。

「清流探検」では、下見の際に本番を想定し、フェイスシールドをつけて川を歩いた。このイベントではライフガードを着用し、その使い方を教えるために水に入るため、その際にシールド面が濡れることで視界が悪くなることが分かった。それを踏まえ、イベント当日は、額に固定して口周りを覆うタイプのマウスガードを使用した。こちらはフェイスシールドのように曇りや水滴による視界不良が起こらないことが確認できた。そして、その後もどのようなタイプが向いているか試行錯誤した。

=====

■ P-3 ルーム 2 13:00-13:18

【発表題目】

ろう・難聴児のためのオンラインキャンプ
プログラムの試み：デフ・アドベンチャー・
キャンプ・オンライン 2020



【発表者】

○針ヶ谷 雅子（ろう・難聴児の体験活動を支える会）

【簡易抄録】

COVID-19 感染拡大の影響で、計画していた8泊9日のキャンプが実施できなくなった。ろう・難聴の子どもの貴重な自然体験や生活体験の機会が失われること、スタッフとして集まったろう者や学生の交流や学びの場も失われることを懸念し、オンラインでのプログラムを企画した。

2日間（各日半日）でロープワーク、星の観察、朝食作り、クラフトの4つを実施することとし、紙資料、ロープ、クラフトキットなどを前もって参加者に郵送しておき、当日はZoomを利用した。画面からでも手話での説明がきちんと伝わるように、スタッフ2名が参加者1名の担当となり、3人が互いの画面だけを見て活動する時間も用意した。ロープワークなどは、習得の進度が違うので、この方法で全員が無理なく実施できたようだった。また、スライドと画面隅の手話の両方を見てもらえるようゆっくりと進めた。

聴スタッフには手話が十分できない者もいたが、ろうスタッフがチャット機能で日本語に翻訳してくれたため、全体が通じるコミュニケーションを楽しめた。子どもたちが活動を楽しみ、学修できたこと、実際のキャンプへの期待が高まったことなどを、事後の感想からうかがうことができた。

=====

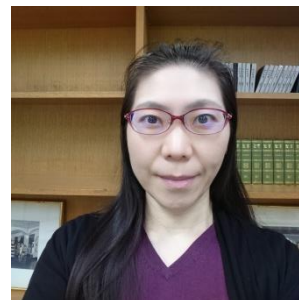
=====
■ P-4 ルーム2 13:20-13:38

【発表題目】

バーチャルキャンプをやってみよう！

【発表者】

○柳下史織（東京YWCA）
谷川真理（東京YWCA）



【簡易抄録】

この夏オンライン上で楽しんだゲームやキャンプソングを、キャンプミーティングに集まったコアなキャンプリーダーたちと一緒に楽しみましょう。

東京YWCAは、毎年夏、長野県野尻湖畔にある4万5千坪の野尻キャンプ場でサマーキャンプを実施していますが、今年は野尻に行けない夏を経験することになりました。戦争中に指令で中止せざるをえなかった時、長野県松代群発地震で一部中止にしたことはありましたが、初めて全てのキャンプを自ら中止としました。キャンプリーダー・調理スタッフ・職員のほとんどが関東圏から赴いていることや宿泊棟・調理場での感染防止が難しいことがその理由です。

しかし何もしないわけにはいきません。初めてオンラインに挑戦。リーダーが集まるオンラインメインホール、キャンパーとリーダーが集まるバーチャルキャンプ。キャンプサイトめぐりの動画やドローン映像でも盛り上がりました。タイムラグで失敗したり試行錯誤しながら、ミュートやチャットといった機能を活用して、色々なゲームやキャンプソングで盛り上がっています。次に再会するまでのつながりを体感する時間をつくります。

=====
■ P-5 ルーム2 13:40-13:58

【発表題目】

夏の自然体験活動・キャンプ事業実態調査報告

【発表者】

○高橋宏斗（公益社団法人日本キャンプ協会）

参考 7月版：https://camping.or.jp/news_release/15527.html

10月版：https://camping.or.jp/news_release/16388.html

=====
■ ルーム2では、14:00-15:00の間、「談話室」を設けます。

発表者の皆様、参加者の皆様の交流の場としてオープンします。

また、ブレイクアウト機能の利用することも可能ですので、ご自由に活用ください。

第24回日本キャンプミーティング実行委員

委員長	野口 和行（慶應義塾大学）
委員	熊澤 桂子（東京教育専門学校）
委員	中丸 信吾（日本女子体育大学）
委員	渡邊 直史（プラムネット株式会社アウトドア共育事業部）
委員	佐藤 冬果（筑波大学大学院）
事務局	高橋 宏斗

第24回日本キャンプミーティング - 第4回オンラインミーティング - Camp Meeting in Japan 2020 - 4th Online Meeting -

抄録集

2020年11月14日発行

発行所 公益社団法人日本キャンプ協会
National Camping Association of Japan

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
TEL 03-3469-0217
FAX 03-3469-0504
E-Mail ncaj@camping.or.jp